

半導体漫遊記

94

湯之上隆

運が良ければ仕事も人生ももっとうまくいくのに。しかし、運は偶然に左右されるため、運をコントロールすることはできない。それが世の常識であり、私もそう思っていた。

ウェアラブルセンサで測定

「運」をコントロール

話をする人数が多ければ、「到達度は33人」顧客からの問い合わせを解析した結果、仕事ば、運と出会う確率もなる。人を介して出必要な情報や知識がど高くなる」と言える。会う情報や能力の可能を行うことである。見ここにあるかも不明だ。従って、必要な情報や知識に巡り合う運が、仕事の成否を左右する。この共同実験は1カ月行われ、その間900件ほどの見積もり提案が行われた。それらの過程が全てウェアラブルセンサで測定され、そのビッグデータ化できるのである。矢野氏が言うように、「運も実力のうち」ではなく、「運こそ実力そのもの」である。運をコントロールする時代がやってきたのである。(微細加工研究所・所長)

ところが、日立製作所中央研究所の矢野和男氏は、著書『データの見えざる手』(草思社)の中で、運をモデル化し、自身が開発したウェアラブルセンサで実際に運を定量的に測定する。そこから、運はコントロールできると結論している。

矢野氏は、「運を人生や社会で確率的に起こる望ましい出来事」と定義する。さらにビジネスについて限定す

き、何人の人に到達できるかを調べればよい」とする。矢野氏は、「これをあなたの2ステップ以内の到達度」と呼んでいる(図1)。

図1の「あなた」には3人の知り合いがいる。その3人がそれぞれ、2人と知り合いであるから、「到達度は9人」になる。もし、同じ3人の知り合いでも、その3人がそれぞれ10人と知り合いなら

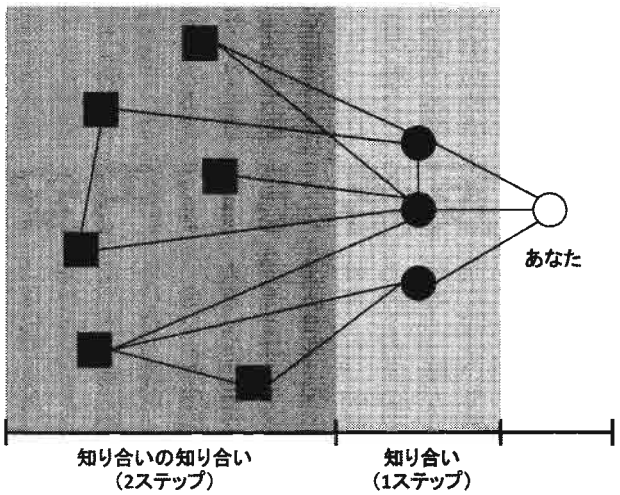


図1 2ステップ以内の到達度を示す図

「あなた」の「知り合い」と「知り合いの知り合い」を合わせた人数は9人。したがって「2ステップ以内の到達度」は9となる。出所: 矢野和男著『データの見えざる手』(草思社)、図4-1。

(微細加工研究所・所長)